

スマート農業施設・機器を活用した実習

●環境制御ハウス

高さ5.3メートルのハウスで、養液栽培システムを導入しています。この施設では、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等を自動で制御することができます。スマートフォン等でハウス環境を整え、植物の管理をデータに基づいて行うなど、研究に有効活用しています。



●食味・収量センサ付きコンバイン

水稲や小麦を収穫しながら、ほ場ごとの水分とタンパクの含有率、収量をリアルタイムで測定することができます。



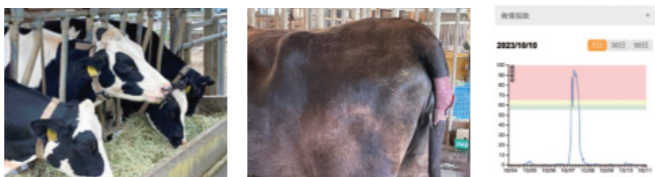
●スマート農業の授業

スマート農業実演・体験研修では、ドローン、自動運転トラクター、ラジコン草刈り機等の最新のスマート農業機械類の操作体験等を行います。

農業用ドローン操作研修では、無人航空機の法制度や飛行資格の取得手順、シミュレーションによる操作技術取得ができます。また、スマート農業の導入事例や現場で普及し始めているスマート機器などの先端技術を学ぶことができます。

●牛行動モニタリングシステム

牛の首や尾などに装着したセンサーによって、牛の採食や反芻^{はんそう}など様々な行動をモニタリングします。その蓄積データを解析することで、発情や疾病、分娩兆候を検知することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知され、学生は観察と照らし合わせながら牛を管理しています。



●GPS付きトラクター

測位衛星の情報を用いて自動でハンドルが動く「GPS自動操舵システム」により、誰でも高精度な直進作業が可能です。



GLOBALG.A.P.の取得推進

農業経営に必須な「労働安全」や「食品安全」、「環境保全」等のGAP(農業生産工程管理)の取組を実践するため、GLOBALG.A.P.認証取得を進めています。

令和6年7月には果樹園芸専攻教室で前年に引き続きブルーベリー、施設野菜専攻教室でイチゴの公開審査を受審し、9月に認証を取得しました。学生と教職員が一丸となり取り組み、農薬散布や機械利用など全ての作業について、安全性が担保できる管理手順書の作成などを行いました。

今後も、幅広い品目でGAPの実践を進め、GLOBALG.A.P.認証の取得を目指していきます。



農場HACCPの取得

家畜の伝染病の発生予防・まん延防止及び畜産物の安全性確保のために、農場管理にHACCPの考え方を取り入れた農場HACCP認証を取得しました。

全国の農業大学校で牛・豚・鶏の3種類の家畜で認証を取得したのは初となります。



千葉農大商店模擬会社

学生が会社経営を模擬体験することにより、ビジネス感覚に富んだ農業経営を学ぶとともに、学習意欲の向上と企画力、提案力、想像力、行動力、チームワーク力の向上を図り、自ら考えて行動できる資質が育ちます。

●模擬会社の運営を通じた農業経営の学び

- 研究科生全員が模擬会社の社員となり、業務を役割分担し、主体的に運営を行っています。
- 農産物生産、販売、財務、企画等農業ビジネスを実践し学びます。
- ブルーベリーの生産を行い、令和4年度から本格的に観光農園を運営しています。
- 露地・施設ほ場において、学生が生産計画を立て、ネギやジャガイモ、えだまめ、メロンなどを生産し、更に各専攻教室等(学校)から農畜産物を仕入れ、直売等で販売しています。



●社員総会

- 10月の社員総会で運営を2年生から1年生へバトンタッチ。
- 社長、副社長の他に、社員は生産部・販売部・広報部・財務部・総務部に所属し模擬会社を運営します。



6次産業化の技術を習得

●6次産業化実習(農学科)

農学科の食品加工実習では、農産物の生産(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)まで取り組む6次産業化について知識を習得します。農産物の加工技術の基礎や原理について学び、農産物を活用した食品加工技術を身に付けています。



●加工・商品開発演習(研究科)

研究科の加工・商品開発演習では、テーマとする農産物を取り上げ、商品化に向けて農産物マーケティングを学びながら、年間を通じて加工演習に取り組んでいます。消費者ニーズの把握、商品コンセプト、試作・テスト販売等、研究科2年間をかけて加工商品開発の実践を通じて、知識・技術を習得します。

